



全肢長通信

令和4年度 第1号
(不定期発行)

令和4年8月 日 発



会長 伴 光明

(都立多摩桜の丘学園)

日肢研第46回研究大会開催

第46回日本肢体不自由教育研究大会(特定非営利活動法人日本肢体不自由教育研究会主催)が、8月5日、6日の両日にわたり、東京都渋谷区にある国立オリンピック記念青少年センターで開催されました。当会は日本肢体不自由児協会、日本障害者リハビリテーション協会と共に共催団体となっています。開催に当たり、次のような趣旨の御挨拶を申し上げてまいりました。

「この研究大会が3年ぶりに開催できたことは、西川公司理事長先生の肢体不自由教育の発展にかける固い信念と、支える役員の皆様の真摯な思い、全国

の会員の皆様はこの教育にかける情熱のがそろってのことであり、誠に得難いこと。『肢体不自由教育研究』の発行をはじめとする日肢研様の精力的な研究活動に教員の研修活動も支えられているものと深く感謝。

コロナ禍でのデジタル活用においては 肢体不自由教育の実践の伝統や基盤が活用されている、逆境を梃子にする姿勢は肢体不自由教育にかかわる教職員の誇るべき資質である。多くの方に知っていただくことが、社会を明るく、勇気をもたらすことにつながる。」

教頭・副校長(全肢頭)も全国大会開催

全肢頭会(会長 石川拓都立光明学園副校長)は静岡県の皆様のご尽力により、見やすく、参加しやすいWebセミナーとなっていました。こちらでは、激務の傍ら主体的に研鑽に励む皆様を激励する趣旨で、次のような祝辞をお送りしました。

「第65回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会静

岡大会の開催を祝します。法で定める校長が校務をつかさどり、教頭・副校長が助けるという構造は大変優れたもの。情報を整理している教頭・副校長が、校長を後押しし、思い留まらせるから。教頭・副校長の存在が組織目標達成の鍵を握る。自校の教育課程の実施状況を評価し学びを實現させていくことを期待。」

8月25日(木)、26日(金)は全肢P連の総会・研究大会です。

ご参加の校長先生方も多いことと思います。保護者の方々は精力的に準備されています。各校PTAへの御支援をよろしくお願いいたします。

